ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：畠中　易子　作成日：2023 年 12 月 25 日

1．教育の責任

＊成人看護学が対象は「青年期」から「中年期」と幅広くそれぞれに特徴や社会的役割も異なっている。それぞれの時期の特徴を踏まえ、多様性な健康生活に対応するための対象理解と適切な看護アプローチができる看護師育成の一翼を担っている。

2．教育の理念

＊多様性を有する対象者への看護を通じて国際化する社会に暮らす人々の健康支援とその向上に貢献するグローバル人材を育成するため、個々の学生が主体的に課題に取り組み自己成長が実感できるように教授する。

3．教育の方法

【講義】

Ⅰ．慢性看護援助論Ⅰの目的：慢性期援助論Ⅰでは慢性期にある患者の特徴から生活を考え、セルフケア支援の視点で考えることを目指す。

1．慢性的な経過をたどる疾患、外傷などによって生活機能の障害をもちながら生活する対象の特徴について学修し、看護の役割を学ぶ。

2．リハビリテーションによる回復、安全・安楽の確保、健康維持に必要な概念と理論を学修し、生活機能の障害をもつ対象への理解を深める。

Ⅱ．慢性期看護援助論Ⅱの目的：慢性的な経過または下降期にある対象者や外傷などによって生活機能の障害がある対象者の特徴について学修し、看護の役割を学ぶ。さらに、慢性疾患と共に生きる対象者が病いと向き合い、自らの生活の再構築に必要な看護援助を計画・実施できるための基礎的な知識・技術・態度を体系的に学修する。また、健康行動の変容を必要とする対象へのセルフケア支援の方法について学習する。

この講義は成人看護学実習前の準備として重要な位置を占める。学生の疑問を丁寧に解決し慢性期における看護過程の展開方法を用いて、患者の全体像を明らかにし、アセスメントすることで看護援助の根拠を明確にする。

慢性疾患により生じる生活機能障害の特徴について学習し、対象者が病いと向き合い、自らの生活の再構築に必要な看護援助の方法を学ぶ。また、疾患や障害に応じた看護援助についてロールプレイ等のアクティブラーニングを用いて主体的に学ぶ。

1．事例の看護過程の展開を行い、情報収集、アセスメント、看護目標立案、計画立案の過程を学修する。

2．対象への理解を深め、必要なセルフケア支援の方法を学修する。

3．授業における資料には、日本語と英語の両方を併用し、常に英語での表現を意識しながら講義・演習を行い、「国際看護演習Ⅱ」および「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させる。

【成人看護学実習：慢性期】

【実習】成人看護学実習では、成人期にある対象者とその家族のライフサイクルにおける成長・発達、および生活者としての多様性を考慮し、生活環境と密接に関連し、個人の生きる意味に深くかかわる健康の回復・維持に向けた看護を学ぶ。様々な経験からの学びや気づきにより、自ら主体的に健康を守り、育み、主体的によりよい方向を選択できるといった成人の特徴を理解し、疾病からの回復におけるセルフケアに必要な看護援助の基礎を学ぶ。

成人看護学実習は、対象者の健康レベルに応じた健康問題を見出し、必要な看護援助を学ぶために 2 つの実習で構成される。成人看護学実習（慢性期）では、慢性疾患で治療を受ける対象のニーズ、症状緩和、セルフケア、QOL の維持・向上を目指した看護、対象とその家族の支援に必要な他職種との連携や看護の役割について、科学的思考を踏まえながら実践できる基礎的能力を養う。さらに、慢性疾患を持ちながら生活する対象の在宅療養への移行支援を通して、地域での療養継続や様々な健康問題を抱えながら生活する人々の理解を深める。

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：畠中 易子　作成日：2023 年 12 月 25 日

４．教育の成果

＊看護では根拠を用いて考えられ、エビデンスを基に実践する必要がある。このため、講義においては、なぜそう考えるのか、「なぜ」という問いを意識して講義を行っている。講義における成果については、評価できる材料が現段階ではないが、今後の実習で評価したい。

＊成人看護学実習においては、学生が受け持っている患者の状況を踏まえ、学生がどこに立ち止まっているかを見極めながら関わった。学生からは、自ら「なぜ」という問いかけアセスメントし対象理科が深まったと述べている。

＊発問を多くしたことや、授業でロールプレイを取り入れたことで、学生のイメージ化につながり、学習姿勢が前向きに変わった。

５．改善への努力と今後の目標

＊今後は、看護実習での成果を踏まえ講義の内容を精選していく。成人看護学実習における慢性期は患者の価値観や生活様式に沿って患者の援助を考える必要がある。多様性が重んじられる時代ではあるが、学生自身は生活体験が乏しいと言われ、自分の生活体験から創造しがたい事例にも出会う可能性がある。このため、出来るだけ学生自ら気づき「アハ体験」が出来るように示唆していく。また学生が少しでも成人看護学で必要知識技術が習得できるよう臨床、他の教員と連携を図り学習環境を整えていく。

【添付資料（添付資料はありません）】

・シラバス

・学生からの el-Campus の評価